

平成29年度第3回 青森県地方独立行政法人評価委員会 議事概要

<開催日時>

平成29年8月31日（木） 13時30分～14時40分

<開催場所>

青森県庁西棟8階 大会議室

<会議次第>

1 開会

2 議事

【公立大学法人青森県立保健大学関係】

(1) 平成28年度財務諸表について

(2) 平成28年度剰余金の翌事業年度充当について

(3) 平成28年度業務実績評価について

【地方独立行政法人青森県産業技術センター関係】

(4) 平成28年度財務諸表について

(5) 平成28年度剰余金の翌事業年度充当について

(6) 平成28年度業務実績評価について

3 閉会

<出席者>

(委員) 伊藤委員長、大矢委員、大坂委員、今野委員、中山委員、
梅庭専門委員、野田専門委員（7名）

(法人) 青森県立保健大学 上泉理事長 ほか
青森県産業技術センター 渋谷理事長 ほか

(県) 健康福祉部健康福祉政策課 神課長 ほか
農林水産部農林水産政策課 山田課長 ほか
商工労働部新産業創造課 外崎副参事

(事務局) 総務部行政経営管理課 富谷課長 ほか

<議事要旨>

1 青森県立保健大学の平成28年度財務諸表及び平成28年度剰余金の翌事業年度充当について

○伊藤委員長

それでは、議事に入ります。

まず、県立保健大学の財務に関して審議を行います。議題1「平成28年度財務諸表について」と議題2「平成28年度剰余金の翌事業年度充当について」を一括して審議しますので、県側から説明をお願いします。

○健康福祉政策課

（資料1、資料2に基づき説明）

○伊藤委員長

どうもありがとうございました。

それでは、委員の皆様から御意見を伺いたいと思います。今の御説明に対して御意見、御質問などございませんか。

いかがでしょうか。

○各委員及び専門委員

（特になし）

○伊藤委員長

それでは、公立大学法人青森県立保健大学の「平成28年度財務諸表について」及び「平成28年度剰余金の翌事業年度充当について」の両件について、県が承認することは妥当であるということにさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

どうもありがとうございました。

2 青森県産業技術センターの平成28年度財務諸表及び平成28年度剰余金の翌事業年度充当について

○伊藤委員長

続きまして、産業技術センターの財務に関して審議を行います。議題3は後ほど審議することとして、議題4「平成28年度財務諸表について」と議題5「平成28年度剰余金の翌事業年度充当について」を一括して審議します。まずは、県側からの説明をお願いします。

○農林水産政策課

（資料4、資料5に基づき説明）

○伊藤委員長

ありがとうございました。

ただ今の御説明について、御質問や御意見はございませんか。

よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（特になし）

○伊藤委員長

では、地方独立行政法人青森産業技術センターの「平成28年度財務諸表について」及び「平成28年度剰余金の翌事業年度充当について」の両件について、県が承認することは妥当であるということにさせていただきたいと思います。

3 青森県立保健大学の平成28年度業務実績評価について

○伊藤委員長

続きまして、議題3、議題6の「平成28年度業務実績評価について」の審議に移ります。

業務実績に関する事業年度評価は、当該事業年度における中期計画の実施状況の調査・分析を行い、その結果を考慮して業務の実績の全体について総合的な評価を行うこととしており、当委員会が主体的に作成・決定することとなっております。このため、先般、法人から提出された「業務実績報告書」に基づき、法人ヒアリングという形で調査・分析を行い、その後、各委員には評価意見を事務局に提出していただいております。

資料3、資料6は、その御意見を事務局にまとめていただいたもので、「平成28年度業務実

績評価書」の案であります。この案を基に修正、意見交換などを行って、最終的な評価書へまとめていきます。

審議の進め方につきましては、まずは項目別評価を審議した上で全体評価へと移っていききたいと思っております。

それでは、まず資料3、公立大学法人青森県立保健大学の「平成28年度業務実績評価書(案)」5ページから審議していきます。

大項目の1番目「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）」についての評価としては、5段階評価の「4」という案にさせていただきます。

年度計画の記載59項目中7項目が「年度計画を上回って実施している」と、また、51項目が「年度計画を十分に実施している」と認められたところですが、研究発表の促進に係る項目については、一人当たりの査読のある学術雑誌への投稿件数が目標に届かなかったことから、「年度計画を十分には実施していない」となりました。「年度計画を十分には実施していない」とされた項目はあったものの、当該項目については、査読のある学術雑誌への投稿件数が前年度と比較して約2倍に増加しているということもあり、これらを総合的に勘案しての評価となります。

特に評価する事項として、学生募集について積極的かつ効果的な取組が実施され志願者を十分に確保しているということ、社会的ニーズに合致した大学院への変革に向けて様々な取組が実施されており、加えて博士前期課程の志願者及び合格者が大きく増加していること、学生支援の方策の充実に関して国家試験対策や就職ガイダンス等々により国家試験合格率や就職率が高い水準を維持していること、の3点を書かせていただいております。

大項目1については、このようにまとめさせていただきましたが、委員の皆様、いかがでしょうか。修正意見などありませんでしょうか。

○各委員及び専門委員

(特になし)

○伊藤委員長

では、大項目1につきましては評価を「4」ということで確定させていただきます。

次は大項目の2になります。「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（研究）」については、評価を「4」とさせていただきます。

評価の理由は、年度計画の記載8項目全てが「年度計画を十分に実施している」と認められた上に、特に評価する事項として、地域課題の解決に向けた「自殺対策プロジェクト」など、県の重点課題である「自殺予防対策」に貢献する取組が着実に進められているということなどを総合的に勘案したとしています。

しかしながら、その他の意見にありますように、下北地域プロジェクトにつきましては、残念ながら中止ということになってしまったようですが、プロジェクト自体の位置付けとか継続

性というものについての再考が必要なのではないかという意見を付けさせていただきました。
委員の皆様、いかがでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

では、これにつきましても、評価を「4」と確定させていただきます。

次に大項目の3「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（地域貢献）」です。これも「4」という評価にさせていただきました。

年度計画の記載11項目中10項目が「年度計画を十分に実施している」と認められておりますが、残念ながら、毎度話題になる県内就職率が目標に届かなかったということで、この項目に関しては「年度計画を十分には実施していない」という結果になりました。

しかしながら、県内就職率の増減については、社会の情勢が大きく影響してくることも考えざるを得ないということなどを総合的に勘案して「4」という評価にさせていただいております。

特に評価する事項としては、公開講座の開催など様々な大学の機能を生かした地域貢献の取組を実施していることを記載しています。

今後の課題として、先ほども触れました県内就職率に関して、保健大学単独の努力ではいかんともしがたいだろうと考えますので、ここのところは行政と連携して取り組んでいく必要があるのではないかとということで書かせていただきました。

委員の皆様、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

では、これも評価は「4」ということにいたします。行政の皆さんも、よろしくお願いたします。

大項目の4に移ります。「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための計画」については、評価を「4」としております。

評価の理由は、10項目全てが「年度計画を十分に実施している」ことに加え、特に評価する事項として、事務職員に対する研修制度の実施に関して、キャリア教育実践講座や職場外研修への派遣など、人材育成に向けた取組が積極的に実施されているとしています。

皆様、いかがでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

では、これも「4」に確定させていただきます。

5番目の「財務内容の改善に関する目標を達成するための計画」については、評価を「4」としております。

11項目のうちの1項目は「年度計画を上回って実施している」、その他10項目が「年度計画を十分に実施している」ということです。特に評価する事項としては、外部資金の獲得に関して、科研費に関しては若干下回ったものの、獲得に向けて様々努力をされているということ、また、科研費以外の外部資金については目標を大きく上回る件数を獲得されており、これは高く評価できるだろうということで「4」とさせていただきました。

いかがでしょうか。よろしいですか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

では、これも「4」に確定させていただきます。

大項目の6「教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための計画」については、評価を「4」とさせていただきました。

評価の理由は、6項目の全てが「計画を十分実施している」ということを総合的に勘案したとしています。今後の課題ということで、大学認証評価で改善勧告があったことについては早急に改善していただきたいということを記載しました。これについては、大学全体としての教員の適正配置、定員管理ということがあってはじめて問題となった部分の改善が実現できるのだらうと考えますので、問題になったポストだけではなく、大学全体の教員の適正配置について検討していただき、その中で解決していくことを目指していただければと思っております。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

では、これについても評価を「4」と確定させていただきます。

項目別評価の最後、大項目の7「その他業務運営に関する重要目標を達成するための計画」につきましても「4」ということで、評価の理由は書かれているとおりです。

よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

次に全体評価ということで、3ページにお戻りください。3ページ、4ページにわたり全体評価を書かせていただいております。（1）総評、（2）業務の実施状況、（3）組織、業務運営等に係る改善事項等と、3つの観点がございます。

まず、総評については、

“ 青森県立保健大学は、本県の保健、医療及び福祉に係る諸課題の解決に向けて取り組むことを理念として、人間性豊かでグローバルな視点を持ち、地域特性に対応できる能力を兼ね備えた保健、医療及び福祉の中核的役割を果たすことができる人材を育成すること、並びに保健、医療及び福祉の教育研究拠点として培った人的資源や教育研究成果を広く地域社会に還元するとともに、産学官民の連携した取組による地域貢献活動を展開し、県民の健康と生活の向上に寄与することを使命としている。

第二期中期目標・計画期間（平成26年度から平成31年度まで）の3年目となる平成28年度は、学生へのキャリア支援の充実等により、各種国家試験合格率及び就職率について、引き続き高い水準を維持しており、高い成果を上げたと認められる。

年度計画については、中期計画の達成に向けて、ほぼ計画どおりに実施したと評価できる。

なお、業務実績報告書において、年度計画に対応した実績かどうか不明な表現が散見されたが、当該報告書は業務実績を対外的に説明するものであることから、数値を用いたより具体的な内容で年度計画に対応した実績であることがわかりやすい表現とするとともに、統括的な視点を持って確認・整理するよう留意されたい。”

ということで、少しだけ留意事項を付けさせていただいております。これにつきましては、ヒアリングの際にも述べさせていただいているところでもあります。

次に、業務の実施状況については、

“ 教育研究等の質の向上（教育、研究及び地域貢献）に関しては、①県内の関連施設等49

3施設に対する大学院のPRを実施したほか、「ヘルスプロモーション演習」を外部の関係専門職へ公開して実践活動における大学院での学びの重要性を認識してもらおうといった大学院課程の定員充足に向けた取組が進められた、②国家試験対策等の学生のキャリア支援の充実等により、各種国家試験合格率及び就職率が引き続き高い水準を維持している、③地域課題の解決に向けた既存プロジェクト研究、特に「自殺対策プロジェクト」について、県内市町村との共同活動等、県の重点課題である「自殺予防対策」に貢献する取組が着実に進められている、④一方で、県内就職率については、目標に届かない状況が続いており、県内医療機関への働きかけなど、行政と連携して取り組んでいく必要がある。

業務運営の改善及び効率化に関しては、実務者向け知的財産権制度説明会やIT研修（ネットワークの基礎、サーバ仮想化技術基礎）などの職場外研修への職員の派遣や、通信教育の受講費用の一部を助成する自己研修に係る制度の継続など、人材育成に向けた取組を積極的に実施している。

財務内容の改善に関しては、科学研究費補助金の獲得件数が、計21件と目標の23件をわずかに下回ったものの、科学研究費補助金への応募を啓発することを目的とした座談会「科研費獲得までの道のりとこれからの可能性」を実施するなどにより、前年度より4件増加したほか、科学研究費補助金以外の外部資金の獲得件数が、計16件と目標の7件を大きく上回っており、着実に成果を上げている。

教育・研究及び組織・運営に関しては、第三者評価機関による大学認証評価結果を踏まえた改善策の策定・実施を確実に進めることが望まれる。

その他の業務運営に関しては、順調に各取組が実施されている。”と書かせていただきました。

組織、業務運営等に係る改善事項等については、“特に改善勧告を要する事項はない”としております。

全体評価について、委員の皆さん、いかがでしょうか。この書き方でよろしいでしょうか。保健大学から何かございますか。

○保健大学（上泉理事長）

1点だけ文言の追加をお願いします。

評価書の5ページ、(1)の「教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画（教育）」の部分でございますが、その1行目の最後の“研究発表の促進に係る”という文章の前に“大学院生の”という一言を入れていただければと思います。

○伊藤委員長

確かに、目標自体は大学院生の学術雑誌への投稿だったと思います。保健大学から、“大学院生の”という一言を追加していただきたいということですが、委員の皆さん、いかがでしょうか。特に問題はございませんでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

では、保健大学の御要望に沿う形で、“大学院生の”という言葉を入れることとして、全体として業務実績評価書をこの形で確定させていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

どうもありがとうございました。

4 青森県産業技術センターの平成28年度業務実績評価について

○伊藤委員長

続きまして、資料6、地方独立行政法人青森県産業技術センターの「平成28年度業務実績評価書（案）」について審議を行います。

5ページからが項目別評価ですので、まずはそこから御覧ください。

大項目の1「県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置（本県産業の未来を支える試験・研究開発の推進と成果の移転・普及）」については、5段階評価の「5：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある」と一番いい評価にしています。

評価の理由としては、19項目中3項目が「年度計画を上回って実施している」、また残りの16項目が「年度計画を十分に実施している」と認められたことに加えて、特に評価ができた5点について総合的に勘案したとしています。

特に評価する事項としては、1つ目はLED信号、2つ目が「青天の霹靂」に関わる部分、3つ目が「水稻のV溝乾田直播」、4つ目がアカイカ漁場の予測実用化、それから5つ目が加工品開発として「地サイダー」「青いリンゴジャム」などのたくさんの商品化がされて、地域観光振興や雇用創出に貢献している、ということを書かせていただきました。

ここの部分について、私から少しお願いしたいことがあります。今回、特に評価する事項として記載した5項目のうち4項目が農水系で、工業系は1項目ということでした。ヒアリング調査の時に業務実績の御説明をいただきましたが、その際にも農水系の業績が目立つという印

象を受けました。工業系も農水系に負けず高い実績を上げていると思いますが、どうしてもパッと目に入ってくるものは農水系のものが多し、県外の方々を含めアピールしていくのも加工品の分野が多く、工業系は農水系に比べて目立たない。青森県の産業全体への貢献に関する業績としては工業系も農水系に負けず劣らずあるだろうと思いますので、農水系、工業系ともバランスよく特筆すべき事項に上げられるような形で実績報告を書いていたいただきたいと感じました。

野田先生、いかがですか。

○野田専門委員

工業系に比べ、農水系の方が成果として現れる規模が大きい研究が多いということだと思えます。工業系でも幅広い項目の研究をしていて、それなりに成果が出ています。来年は、私としても、工業系に関する特筆すべき事項を抽出していこうと思います。

○伊藤委員長

委員の皆様、いかがでしょうか。何か御意見はありませんか。

○各委員及び専門委員

（特になし）

○伊藤委員長

では、大項目1については、評価を「5」とさせていただきます。

次の大項目2「産業活動への総合的な支援」については、評価を「4」とさせていただきます。

年度計画の11項目中2項目が「年度計画を上回って実施している」となっており、残り9項目が「年度計画を十分に実施している」となっています。

特に評価する事項としては、工業系の依頼試験・分析・調査の実施件数が非常に高い目標達成率となっていること、農水系の生産物の高付加価値化として商品化の成果が上がっていることを書かせていただきました。

その他の意見として、ヒアリング調査の時も意見が出ていましたが、技術相談などに関して部門毎に独立して行われているところがあるので、横の連絡調整というか情報共有をもう少し進めていただくとより良い対応が実現していくのではないかと付けさせていただきます。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

では、大項目2については「4」とさせていただきます。

次に大項目3「試験・研究開発の取組状況等の情報発信」ですが、これも「4」とさせていただきました。

項目は2つしかありませんが、1つは「年度計画を上回って実施している」、もう1つは「年度計画を十分に実施している」ということです。

特に評価する事項として書きましたが、地元誌、具体的には東奥日報だったのでしょうか、そこでのコラムの連載によりいろいろな取組の状況を紹介したことが、活動内容のPRとしてとても効果があったのではないかと考えております。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

では、ここも「4」とさせていただきます。

次に大項目の4「緊急事態への迅速な対応」ですが、ここは評価を「5」とさせていただきました。

「高病原性鳥インフルエンザの発生」に際して、県との業務連携協定以上の迅速かつ積極的な対応により、事態の収束に非常に大きく貢献をしたということは高く評価されるべきことと思います。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

続きまして、大項目5になります。「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」は、評価を「4」としております。

6項目全てが「年度計画を十分に実施している」となっておりますが、その他の意見として、

アンケートについて回収率を高める工夫などがあれば、さらなる業務改善や効率化に結びつくのではないだろうかということを記載しています。

よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

では、これも「4」とさせていただきます。

次に、大項目6「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」については、これも「4」ということにしています。

すべての項目が「年度計画を十分に実施している」ということで、そうさせていただきました。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

最後、大項目7になります。「その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置」ですが、これも5項目全てが「年度計画を十分に実施している」ということで、評価を「4」にいたしました。

その他の意見として、軽微な事故が3件発生したとのことですが、それを軽微だということで済ませることなく、労働安全衛生管理をより徹底して、事故の発生を未然に防いでいただきたいということを書かせていただいております。

よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

これまで見てきた項目別評価を総合的にまとめたものが、3ページ、4ページにある全体評価となります。

まず、(1)の総評としては、

“ 青森県産業技術センターは、第一期中期目標・計画の期間において、工業や農林、水産、食品加工の4研究部門を統合した総合的な試験研究機関として、試験・研究開発の効率的な推進に向けた運営の基盤づくりを行いながら、本県産業の未来を支える試験・研究開発や新しい産業活動及び優れた製品等の開発・事業化への支援、試験・研究開発の成果の移転・普及等に取り組んできた。さらに、第二期中期目標・計画の期間においては、これまでの成果を継承しながら、技術の実用化や売れる商品づくり等の出口を見据えた取組を戦略的かつ重点的に推進し、生産事業者の収益力向上に貢献する「生産事業者や県民の身近な試験研究機関」という役割を果たすため、役職員が一丸となって試験・研究開発等の業務に取り組むこととしている。

第二期中期目標・計画期間（平成26年度から30年度）の3年目となる平成28年度は、本県の産業振興における重要性や緊急性、波及効果の大きさ等の視点から重点化した試験・研究開発に4研究部門が一体となって取り組み高い成果を上げただけに留まらず、試験・研究開発の成果の普及拡大及び商品化・実用化にも積極的に取り組んでおり、年度計画については、中期計画の達成に向けて、計画どおりに実施したと評価できる。

なお、業務実績報告書について、業務実績の記述が不十分な部分も散見されたが、当該報告書は業務実績を対外的に説明するものであることから、今後は可能な限り数値を用いて具体的に記述するよう留意されたい。”

とまとめました。

(2)の業務の実施状況については、

“ 本県産業の未来を支える試験・研究開発の推進と成果の移転・普及に関しては、①LED信号灯の着雪・凍結対策について、積雪寒冷地の降雪期における交通システムの安全性向上のために、着実に試験・研究開発が進められている、②水稲品種「青天の霹靂」について、栽培マニュアルの大幅な拡充を図ったほか、衛星リモートセンシング技術で土壤肥沃度を判定する技術の開発と普及拡大に取り組み、高品質な「青天の霹靂」の安定生産に貢献した、③「水稲のV溝乾田直播」について、県や生産者団体と連携して現地指導の実施や研修会の開催に取り組み、労働時間や生産コストの削減につながる同技術の普及拡大に貢献した、④アカイカ漁場の予測実用化について、予測に基づく試験操業結果の提供により中型イカ釣り船の操業が復活するなど、記録的不漁が続くイカの漁獲量の確保に貢献した、⑤地域の農産物を活用した加工品開発について、「地サイダー」や「青いリンゴジャム」など新たに13品目が商品化され、地域観光振興や雇用創出に貢献したなど特筆すべき成果を上げている。

産業活動への総合的な支援に関しては、依頼試験・分析・調査及び設備利用・機器貸出に関して、目標値を大きく上回る成果を上げている。

試験・研究開発の取組状況等の情報発信に関しては、約1年間にわたる地元誌でのコラム連載による試験・研究成果の紹介など、活動内容のPRに取り組んでいる。

緊急事態への迅速な対応に関しては、「高病原性鳥インフルエンザの発生」に際して、県との業務連携協定の内容以上に迅速かつ積極的に対応し、事態の収束に大きく貢献したなど特筆すべき成果を上げている。

業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善及びその他の業務運営に関しては、順調に各

取組が実施されている。”
としました。

（3）の組織、業務運営等に係る改善事項等については、“特に改善勧告を要する事項はない”
としました。

委員の皆様、いかがでしょうか。書きぶりとか。よろしいですか。産業技術センターの理事長さんから何かございませんか。

○産業技術センター（渋谷理事長）

ありません。

○伊藤委員長

委員の皆様、よろしいでしょうか。

○各委員及び専門委員

（異議なし）

○伊藤委員長

では、青森県産業技術センターの業務実績評価書については、この形で決定させていただきたいと思います。皆様、どうもありがとうございました。

最後に、委員の皆様から感想などをいただきたいと思います。

○梅庭専門委員

全体的に進捗状況は順調だと思いましたが、ちょっと実績報告書の書きぶりのところでは気になったところがあります。

「専門教育の充実」のところでは、国家試験合格率や学生の満足度調査結果を基にした自己評価の記述がされていたことに違和感があり、残念な気がしました。年度計画に沿ってどうであったかを実績として表現してもよかったのかなと思います。

○伊藤委員長

ヒアリング調査の時にも御指摘がありましたので、次の実績報告を作る時にはもう少し工夫をしていただいてもいいかなと思います。

○野田専門委員

今年度から専門委員になって、産業技術センターの評価をしましたが、幅広い分野の業務実績について業務実績報告書として各項目200字くらいにまとめることはすごく難しいことだと思います。自分の専門分野からちょっと離れると、200字くらいの記載内容では理解が難しいところもありましたので、直接お会いしてお話を聞いたりもしましたが、なかなか素晴らしい方向で研究をされていることがわかりました。

今後ともこれまで同様に頑張ってください、青森県の発展に貢献していただきたいと思いません。

○中山委員

昨年度からこの評価委員会に参加させていただいておりますが、昨年にも増して、幅広い分野で成果が見られ、県民への貢献も際立ったものがたくさんあったなと感じております。

○大坂委員

中山委員と同じく2年目ですが、今年も両法人ともに「4」ないし「5」という評価で、すばらしい結果であったと思います。中期計画の4年目の年度が進行していますので、引き続き頑張ってくださいと思います。

○今野委員

まず総論として、両法人とも順調な業務運営をなされているということに敬意を表したいと思います。

各論として、まず保健大学の方は、大学院生を含めた学生の確保と質の向上と、難しい問題だということも私も認識しておりますが、県内就職率の向上というところに引き続き取り組んでいただきたいと思います。産業技術センターについては、大変すばらしい研究をされていると感じています。そういった研究の成果を、引き続き県民に対してPRしていくというところに傾注していただければと思っております。

○大矢委員

野田専門委員もおっしゃっていましたが、それぞれの項目の業績を短くまとめるということはとても大変なことだったのではないかと思います。業務実績報告書を拝見しました。昨年度より、読みやすい資料となっていたと思います。

内容につきましても、保健大学では、教員の内部育成を始めとして様々な取組がなされていることを実感しました。産業技術センターでは、すごいと思うような内容の試験研究がされているので、これからもいろんな研究等を続け、県の産業の振興に貢献していくことを心から希望しております。

○伊藤委員長

どうもありがとうございました。
法人側から、何かございましたらお願いします。

○保健大学（上泉理事長）

今年も「順調な進捗状況にある」との評価をいただきまして、本当にありがとうございました。今回御指摘のあったことにつきましては、大学の方でも検討をさせていただきながら、更なる向上に向けて努めて参りたいと思います。

○産業技術センター（渋谷理事長）

私どもの方も、高い評価をいただきありがとうございました。
7項目中、2項目について最高評価をいただきましたが、特に、私ども試験研究機関として最大の使命と考えております研究・開発、それから実用化、これについて3年連続で最高評価をいただいたということで、各部署を通じて各研究員に日々の努力が評価されたと連絡したいと思います。
しかしながら、あくまでも最終目標は第二期中期目標の達成ですので、今年度以降も引き続き努力をして、最終目標を達成できるよう頑張って参りますので、今後ともよろしく御指導をお願いします。

○伊藤委員長

どうもありがとうございました。
以上で平成29年度第3回の青森県地方独立行政法人評価委員会を終了いたします。皆様、どうもありがとうございました。